

勘定奉行に仕訳伝票を連動する方法について

この資料は、以下の製品について記述したものです。

- ・ 固定資産奉行 i10/ 償却奉行 i10/ i8/ i
- ・ 固定資産奉行 V ERP10/ V ERP8/ V ERP

内 容

本資料では、『固定資産奉行シリーズ』または『償却奉行シリーズ』の資産データを『勘定奉行シリーズ』に仕訳伝票を連動する方法をご案内します。

なお、連動する仕訳種類は複数ありますが、ここでは「減価償却費の計上」を例にご紹介します。

※本手順書の画面イメージは『固定資産奉行i10シリーズ』のものです。

画面イメージはご利用の製品、バージョンにより異なる場合があります。

目 次

以下のページで、事前準備から、連動方法などの処理の流れを記載しています。

(◆をクリックすると該当ページにジャンプします。)

【事前準備】

- ◆ 連動方法や連動するマスターの種類などを設定する (2ページ)
- ◆ 作成する仕訳伝票の勘定科目コードなどを設定する (4ページ)

【連動方法】

- ◆ 『勘定奉行シリーズ』と連動する仕訳伝票を作成する (5ページ)
- ◆ 仕訳伝票ファイルの受け入れ方法 ※ファイル連動の場合 (6ページ)

【連動後の確認方法】

- ◆ 連動した仕訳伝票の確認方法 (7ページ)

【トラブルシューティング】

- ◆ よくあるお問い合わせ (8ページ)

操作の詳細につきましては、該当のページをご参照ください。

連動方法や連動するマスターの種類などを設定する

- ① [随時処理]-[仕訳伝票作成]-[仕訳連動初期設定]メニューを選択します。
- ② [基本設定]ページで、連動方法などを設定します。

仕訳連動初期設定

OBC商事株式会社

基本設定 | マスター設定 | 伝票設定 (共通) | 伝票設定 (資産) | 伝票設定 (リース)

【連動設定】

連動対象製品 勘定奉行

連動方法 ファイル連動

【連動先情報】

会社コード 0000000001 会社変更 (C)...

会社名 OBC商事株式会社

データベース名 OBC商事株式会社

②-1 連動対象製品

連動する製品が表示されます。

連動する製品を『勘定奉行[個別原価管理編]』や『勘定奉行[建設業編]』にする場合には、[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページの「連動先システム」を変更します。

【仕訳連動設定】		
連動先システム	0	勘定奉行
プロジェクト	0	使用しない
決済方法	1	使用する

②-2 連動方法

以下の2つから、連動方法を選択します。

●ファイル連動

⇒『勘定奉行シリーズ』に連動する仕訳伝票のファイルを作成します。

別途、『勘定奉行シリーズ』側で、ファイルを受け入れます。

●直接連動

⇒直接、『勘定奉行シリーズ』に仕訳伝票を登録します。

参 考

連動する製品により、一部制限があります。

I. 以下の製品での連動の場合は、ファイル連動のみ可能です。

○『固定資産奉行i10/VERP10』、『償却奉行i10』 ⇒ 『勘定奉行i8/i/VERP8/VERP』

○『固定資産奉行VERP8/VERP』、『償却奉行i8/i』 ⇒ 『勘定奉行i10/VERP10』

※『勘定奉行[個別原価管理編]』、『勘定奉行[建設業編]』を含む

II. 両奉行がスタンドアロン版の場合は、同一PCにセットアップされている場合のみ、直接連動が可能です

②-3 連動先情報

[会社変更]ボタンをクリックすると、連動先の『勘定奉行シリーズ』のデータ領域を設定できます。

参 考

「連動方法」が「直接連動」の場合には、ここで設定された『勘定奉行シリーズ』のデータ領域に仕訳伝票を作成します。

また、「連動方法」の設定に関わらず、4ページの「作成する仕訳伝票の勘定科目コードなどを設定する」で勘定科目コードを検索することもできますので、設定をすることをおすすめします。

- ③ [マスター設定]ページで、仕訳伝票で使用するマスターを設定します。

※取引先は、『固定資産奉行i10』『償却奉行i10/i8/i』の『Bシステム』の場合は表示されません。

- ④ [伝票設定(共通)]ページで、仕訳伝票区分などの仕訳伝票の基本情報を設定します。

- ⑤ [伝票設定(資産)]ページで、減価償却費の計上の項目を設定します。

⑤-1 資産勘定科目別の減価償却費科目

以下の2つから、選択します。

- すべての資産勘定科目で同一科目を使用する
⇒費用区分ごとに、会計システム上の減価償却費の勘定科目コードを設定します。
- 資産勘定科目ごとに異なる科目を使用する
⇒費用区分ごと、資産勘定科目ごとに、会計システム上の減価償却費の勘定科目コードを設定します。

⑤-2 特別償却実施額の計上

以下の2つから、選択します。

- 減価償却費に含めて計上する
⇒特別償却実施額を含んだ金額で減価償却費の仕訳が作成されます。
- 減価償却費とは別の科目で計上する
⇒特別償却実施額だけ、減価償却費とは別の科目を使って、仕訳が作成されます。

- ⑥ F12[登録]ボタンを押して、登録します。

作成する仕訳伝票の勘定科目コードなどを設定する

- ① [随時処理]-[仕訳伝票作成]-[仕訳コード設定]メニューを選択します。
- ② 仕訳伝票の勘定科目コードを設定する仕訳種類を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

- ③ 各ページで、資産勘定科目ごとに『勘定奉行シリーズ』の勘定科目コード・補助科目コードを設定します。

- ③-1 変更対象の資産勘定科目を選択します。
- ③-2 勘定科目コード、補助科目コードを設定します。

参考

[仕訳連動初期設定]メニューの[基本設定]ページで、連動先情報が設定されていると、Space キーなどで、勘定科目コード・補助科目コードの検索が可能です。

- ③-3 控除方法を選択します。
- ③-4 F12[登録]ボタンを押して、登録します。

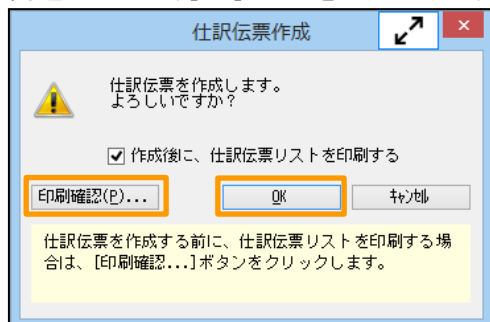
- ④ [仕訳連動初期設定]メニューの[マスター設定]ページで、仕訳伝票で使用するマスターがあれば、再度、[仕訳コード設定]メニューで、対象を選択して、『勘定奉行シリーズ』のマスターコードを設定します。

『勘定奉行シリーズ』と連動する仕訳伝票を作成する

- ① [随時処理]-[仕訳伝票作成]-[仕訳伝票作成]メニューを選択します。
- ② 仕訳伝票を作成する仕訳種類にチェックをつけて、[OK]ボタンをクリックします。

- ③ 「集計期間」や「仕訳伝票日付」など必要な情報を入力して、F2[実行]ボタンを押します。

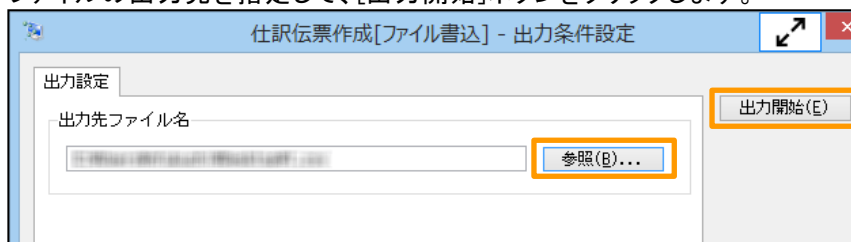
- ④ 仕訳伝票の作成確認のメッセージが表示されます。
ここで、[印刷確認]ボタンをクリックすると、事前に作成される仕訳伝票を確認できます。
問題なければ、[OK]ボタンをクリックします。



- ⑤ 連動方法により、以下のように挙動が異なります。

●ファイル連動の場合

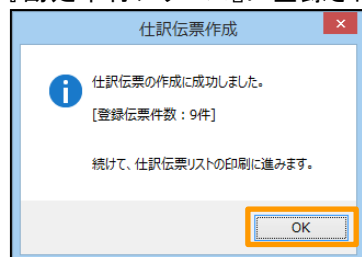
⇒仕訳伝票ファイルの[出力条件設定]画面が表示されますので、[参照]ボタンをクリックして、ファイルの出力先を指定して、[出力開始]ボタンをクリックします。



作成された仕訳伝票ファイルは、二次加工をしないでそのまま『勘定奉行シリーズ』で受け入れてください。二次加工をすると、動作保証外となります。

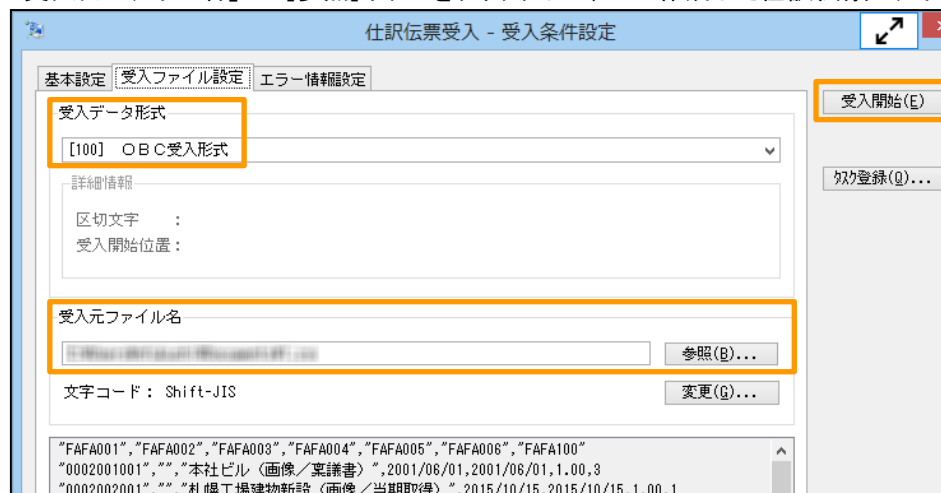
●直接連動の場合

⇒『勘定奉行シリーズ』に登録された伝票の件数を確認して、[OK]ボタンをクリックします。



仕訳伝票ファイルの受け入れ方法 ※ファイル連動の場合

- ① 『勘定奉行シリーズ』で[随時処理]-[奉行連動データ受入]-[仕訳伝票受入]メニューを選択します。
② [受入ファイル設定]ページで、以下の設定をして、[受入開始]ボタンをクリックします。
「受入データ形式」：「OBC受入形式」を選択します。
「受入元ファイル名」：[参照]ボタンをクリックして、上で作成した仕訳伝票ファイルを指定します。



連動した仕訳伝票の確認方法

- ① 『勘定奉行シリーズ』で[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューを選択します。
- ② F8[伝票検索]ボタンを押します。
- ③ [条件設定]画面で以下の登録区分を選択して、[画面]ボタンをクリックします。
※F3[設定]の[運用設定]ページの「伝票検索画面の形式」によって、設定箇所が異なります。

●「伝票検索画面の形式」が「標準形式」の場合

- ファイル連動の場合
⇒「仕訳受入固定資産」を選択します。
- 直接連動の場合
⇒「直接連動固定資産」を選択します。

●「伝票検索画面の形式」が「拡張形式」の場合

- ファイル連動の場合
⇒「仕訳伝票受入(償却/固定資産奉行)」を選択します
- 直接連動の場合
⇒「直接連動(償却/固定資産奉行)」を選択します。

- ④ 結果画面では、『固定資産奉行シリーズ』または『償却奉行シリーズ』で連動した仕訳伝票のみが表示されます。

よくあるお問い合わせ

- ❓ [仕訳伝票作成]メニューで実行すると、[実行結果]画面で、「仕訳コードが設定されていないため、仕訳伝票を作成できません。」と表示される。

- A 意図していないマスターを使った資産が登録されているか、仕訳コード設定がされていないマスターがあります。

[実行結果]画面の内容をもとに、資産の修正、または仕訳伝票で使う勘定科目コードなどを設定します。

- ① [随時処理]-[仕訳伝票作成]-[仕訳コード設定]メニューを選択します。
- ② リストから、[実行結果]画面に記載されている「仕訳種類」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

- ③ [実行結果]画面に記載されている「ページ名」を選択して、『固定資産奉行シリーズ』または『償却奉行シリーズ』で、関連付けるマスターの種類を確認します。

勘定科目コード	勘定科目名	補助科目コード	補助科目名
001	販売費及び一般管理費	760	減価償却費
002	製造経費		
003	営業外費用		
000	その他費用区分		

- ④ [管理資料]-[資産台帳]-[固定資産台帳]-[固定資産台帳[合計表]]メニューを選択します。
- ⑤ [パターン選択]画面で、作成する仕訳種類に適したパターンを選択して、[OK]ボタンをクリックします。

- ⑥ [基本条件]ページの集計範囲の第一項目に、手順③で確認したマスターの種類を設定します。
 ※上記以外にも、集計期間など仕訳伝票作成時の条件を設定します。
 条件の設定が完了後、[画面]ボタンをクリックします。

- ⑦ 結果画面で、登録した覚えのないマスターが表示されていないか確認します。

コード 名称	取得価額 消費税額	期中増加額 期中減少額	前期繰越特別不足額 前期繰越超過額	期首帳簿価額(限度) 期首帳簿価額
【合計】			0	787,708,110
001 販売費及び一般管理費			0	788,182,068
002 製造経費	558,414,400	0	0	290,614,053
000 その他費用区分	43,766,225	0	0	291,087,011
	3,568,500	0	0	495,667,857
	178,425	0	0	1,427,400

もし、登録した覚えのないマスターが表示されていた場合は、以下の手順で修正します。

- ⑦-1 修正対象のマスターをダブルクリックします。

001	474,086,463	0	0	290,614,053
販売費及び一般管理費	24,522,230	0	0	291,087,011
002	558,414,400	0	0	
製造経費	43,766,225	0	0	495,667,857
000	3,568,500	0	0	
その他費用区分	178,425	0	0	1,427,400

- ⑦-2 [固定資産台帳[明細表]]メニューが開きますので、修正対象の資産をダブルクリックします。

000 その他費用区分				
0002451001	札幌装置制御ソフトウ	2011年 9月 7日	1	1.00

- ⑦-3 [資産登録]メニューが開きますので、F9[修正]ボタンを押して、対象のマスターを変更して、F12[登録]ボタンより、登録します。

月次特別	圧縮	追加支出	減損	償却方法変更
基本	付属情報	償却	月次償却	償却資産税 移動 除却・売
数量		1.00		
資産勘定科目	245	ソフトウェア		
部門	011	札幌支店		
設置場所	1106	札幌工場事務所		
費目区分	000	その他費用区分		

月次特別	圧縮	追加支出	減損	償却方法変更
基本	付属情報	償却	月次償却	償却資産税 移動 除却・売
数量		1.00		
資産勘定科目	245	ソフトウェア		
部門	011	札幌支店		
設置場所	1106	札幌工場事務所		
費目区分	001	販売費及び一般管理費		

- ⑦-4 [固定資産台帳[合計表]]メニューで、F8[再集計]ボタンを押して、登録した覚えがないマスターが表示されていないことを確認します。

- ⑧ [固定資産台帳[合計表]]メニューに表示されているマスターと、[仕訳コード設定]メニューで設定されているマスターが同じか確認します。

●[固定資産台帳[合計表]]メニュー

コード 名称	取得価額 消費税額	期中増加額 期中減少額	前期繰越特別不足額 前期繰越超過額	期首帳簿価額(限度) 期首帳簿価額
□【合計】	1,036,089,963 68,486,880	0 0	0 0	787,709,110 788,182,068
001 販売費及び一般管理費	477,654,963 24,700,855	0 0	0 0	292,041,453 292,514,411
002 製造経費	558,414,400 43,786,225	0 0	0 0	495,667,657

●[仕訳コード設定]メニュー

資産勘定科目				
減価償却費		減価償却累計額		
費目区分コード	費目区分名	勘定科目コード	勘定科目名	
		補助科目コード	「002：製造経費」に勘定科目が設定されていません。	
コード	費目区分名	勘定科目コード	勘定科目名	補助科目コード
001	販売費及び一般管理費	780	減価償却費	
002	製造経費			
003	営業外費用			
000	その他費目区分			

もし違う場合には、4ページの「作成する仕訳伝票の勘定科目コードなどを設定する」を参考に勘定科目コードを設定します。

以上